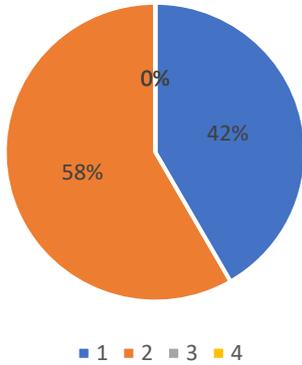


1、よくできている 2、まあまあできている 3、あまりできていない 4、まったくできていない

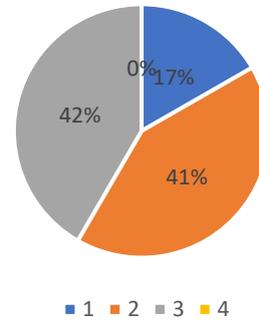
I 保育の計画性

1、園のスローガン・指針の理解

① 園のスローガンを理解し共感している

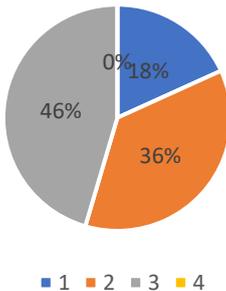


② 園のスローガン・指針について園長や主任と話し合い保護者に説明できる



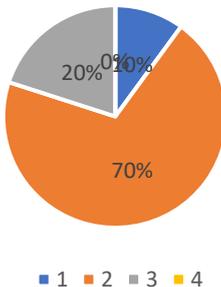
2、幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解

① 幼稚園教育要領・保育所保育指針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思い浮かべることが出来る

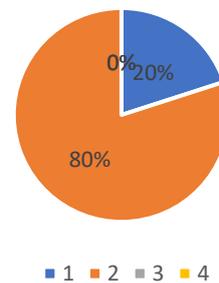


3、教育課程の編成と評価

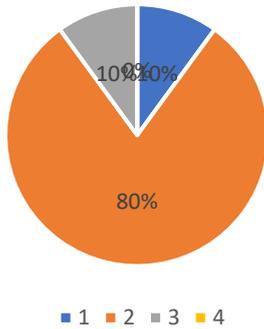
① 幼稚園教育要領・保育所保育指針をふまえて園のスローガン・指針に従い編成している



② 1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している

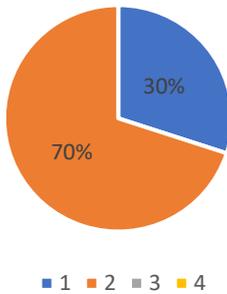


③ 園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている

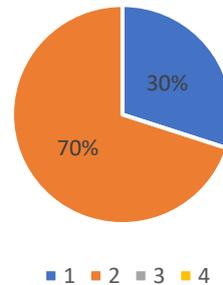


4、指導計画の作成

① 指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している

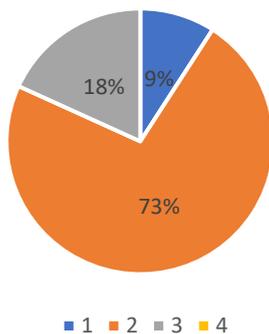


② 行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている

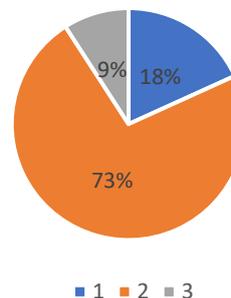


5、環境の構成

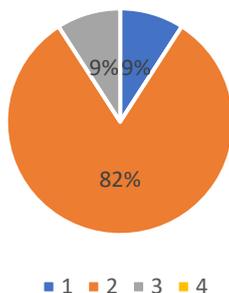
① 指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている



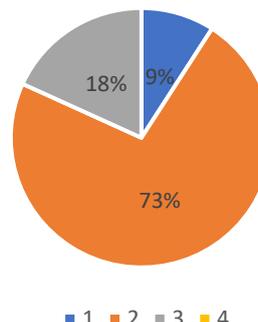
② 楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている



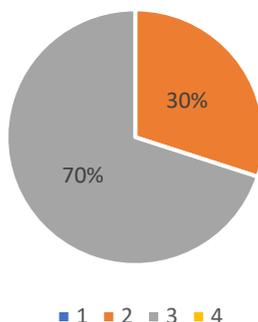
③ 幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている



④ 幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている

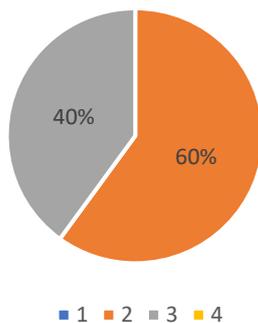


⑤ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている

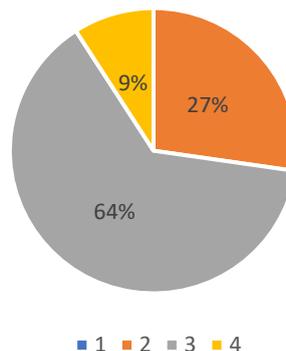


6、保育と計画の評価・反省

① 自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている



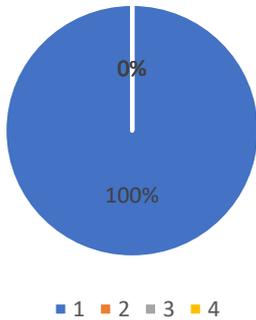
② お互いに保育を見せ合い検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている



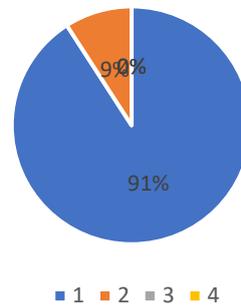
II 保育の在り方、幼児への対応

1、健康と安全への配慮

① 朝の登園時は特に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している

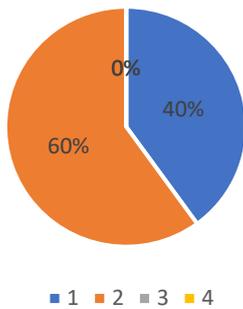


② 体調が悪そうな時や万一事故が起きた場合には適切な処置を行いすぐに家庭や関係機関へ連絡している

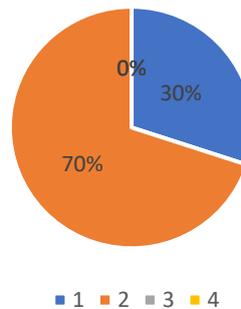


2、幼児の見取りと理解

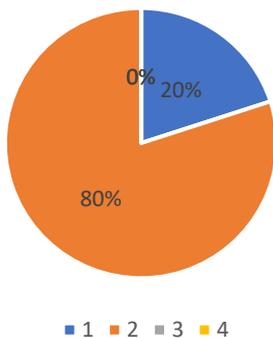
① 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している



② 一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる



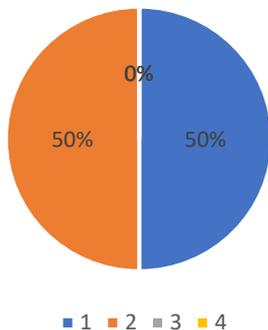
③ 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる



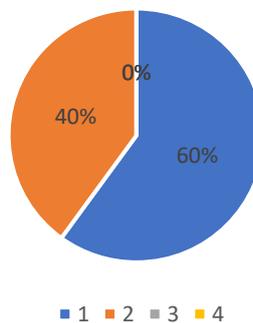
3、指導とかかわり

〔心のよりどころとして〕

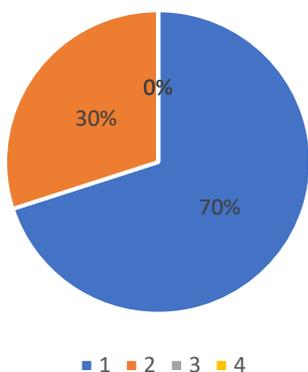
① 幼児一人一人を観察し、ありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている



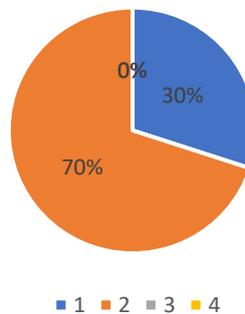
② 幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている



③ 幼児の話をよく聞くようにしている

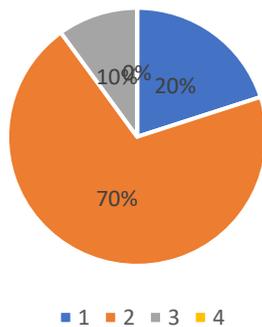


④ “一人一人”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている

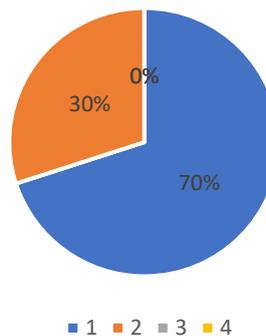


〔遊び・活動の援助者として〕

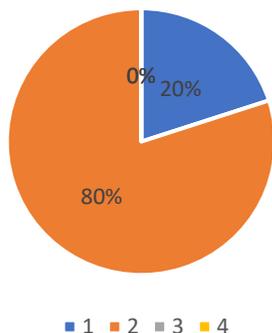
① 幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している



② 幼児をほめたり、励ましたり、目当てを持たせるような言葉かけをしている

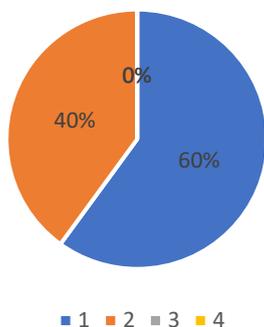


③ 禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度は出来るだけ控えている

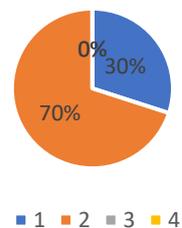


[その他]

① 幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっている

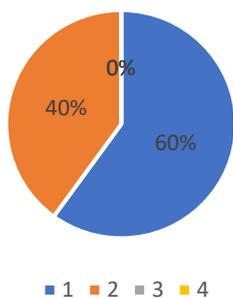


② 支援を必要とする子が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育...

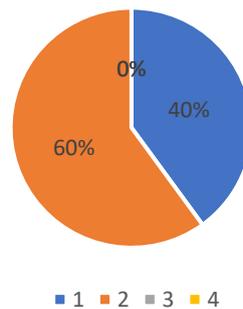


4、保育者同士の協力・連携

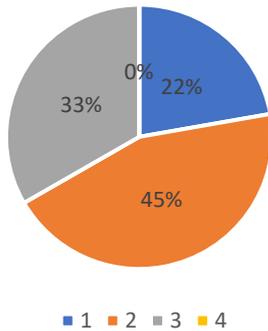
① クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している



② 指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている



③ 他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うよう
様々な工夫、保育の形態を取り入れている

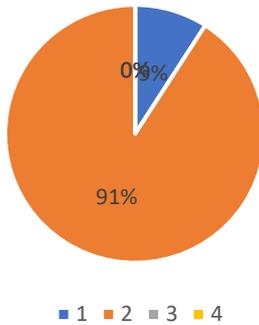


III 保育者としての資質や能力・良識・適性(保育者：幼稚園 教諭と保育士の総称)

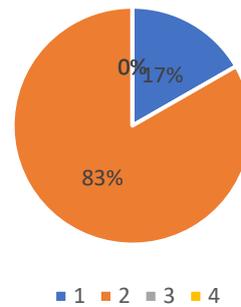
1、専門家としての能力・良識・義務

[専門家としての能力]

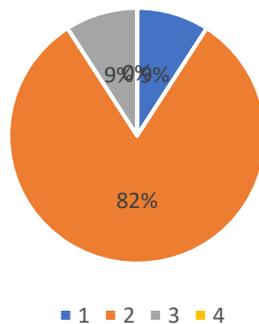
① 保育に携わる者として、専門知識や技能
を身につけている



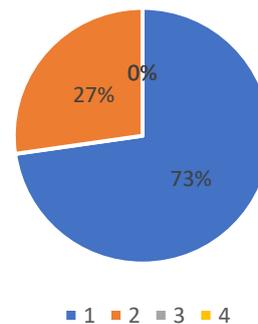
② 保護者に対し、幼児のことや自分の保育のこと
を分かりやすく話すことができ、保護者との信頼
関係をつくることに努めている



③ 保育者並びに他職員が仕事の手順を考
え、能率よく行っている

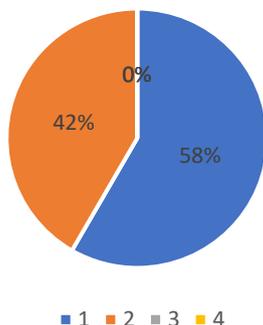


④ 保育者の人間性が子ども達に影響を
与えることを自覚している

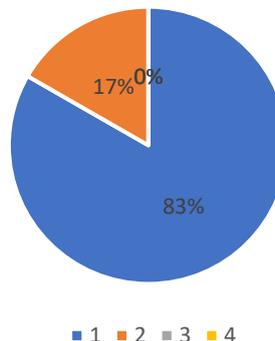


[良識とマナー]

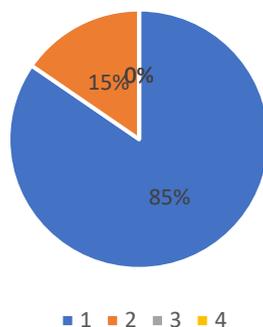
① 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている



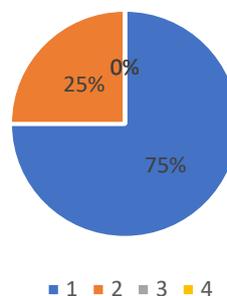
② 朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている



③ 園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない

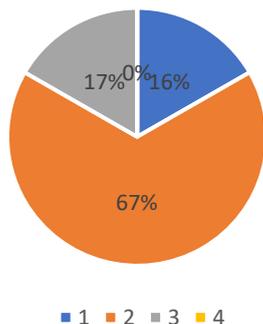


④ 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている

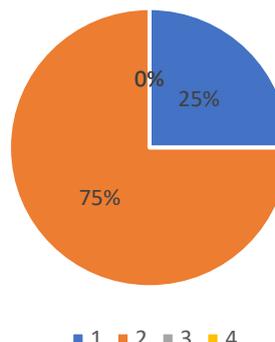


[義務]

① 教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している

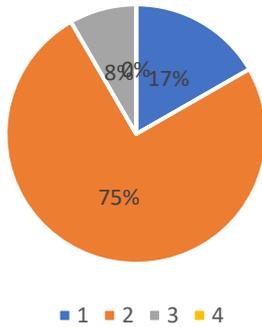


② 締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている

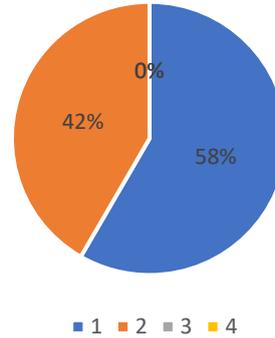


2、組織の一員としての在り方

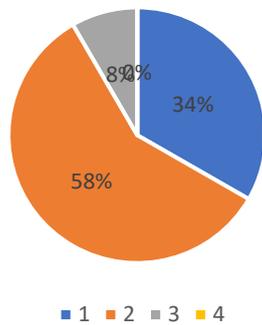
① 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる



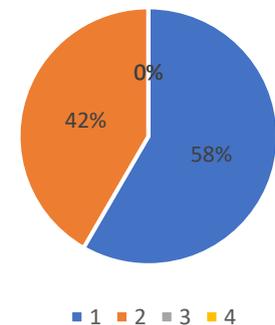
② 子どもの事、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している



③ 当番や役割による仕事を理解し、確実にやっている

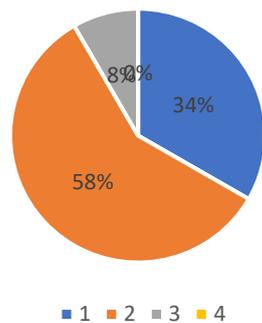


④ 上司の指示、命令には責任を持って実行している

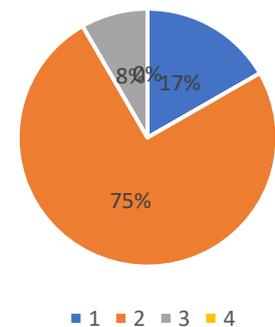


3、まわりを感じ取れる感性・アンテナ

① 幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている



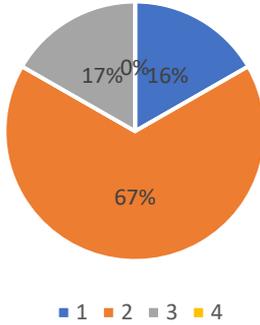
② 社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている



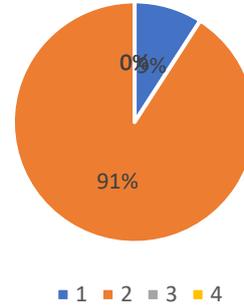
IV 保護者への対応・守秘義務

1、情報の発信と受信

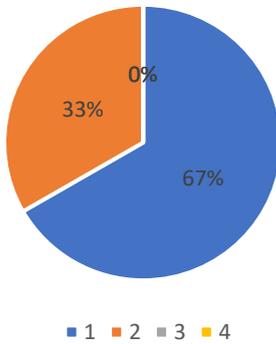
① 一人ひとりの子どもについて、家庭での
養育方針などを把握している



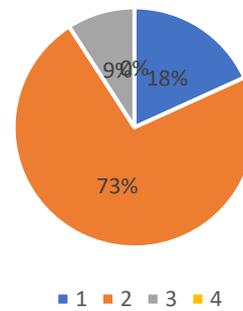
② クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・
クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを
活用してわかりやすく伝える工夫をしている



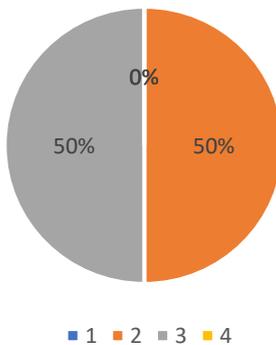
③ 個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、
連絡帳、電話などを使って伝え合っている



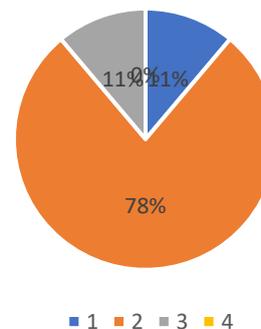
④ 保育参観や保護者面談を定期的に行い、子ども
について、保育や家庭でのあり方について共通理
解を得るように努めている



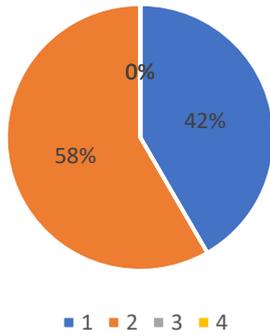
⑤ 定期的にアンケート等にて保護者の要望を聞き、子
どもにとってよりよい環境づくりに努めている



⑥ 保護者との情報交換の内容を、必要
に応じて記録している

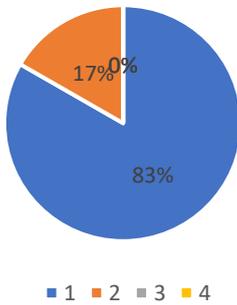


⑦ 子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている

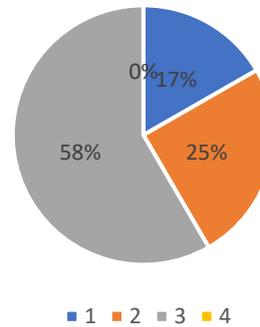


2、協力と支援

① 保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている

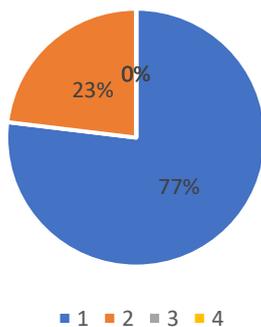


② 必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる

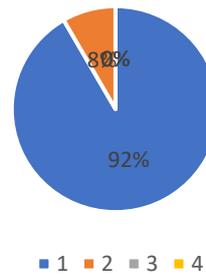


3、守秘義務の遵守

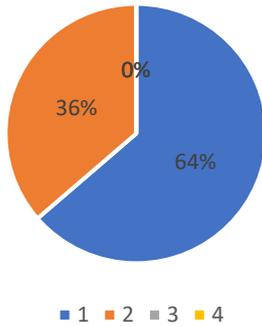
① 教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない



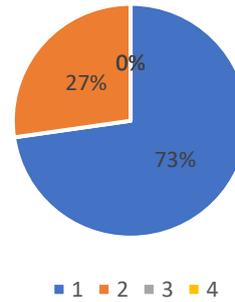
② 秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない



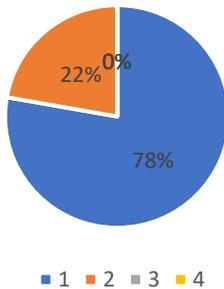
③ 秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している



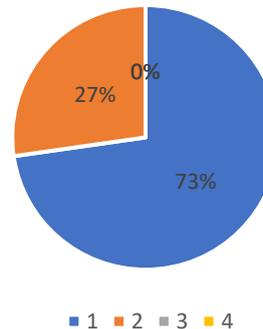
④ 秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は園長の許可を取っている



⑤ 秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している

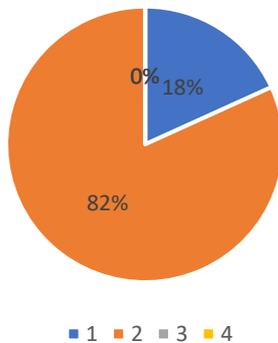


⑥ 秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している

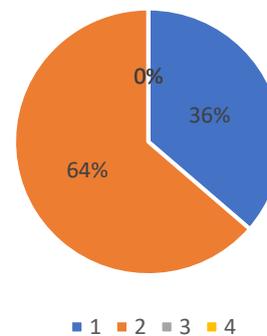


4、対応上のマナー・良識

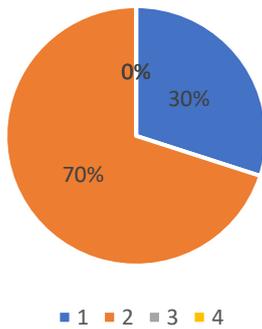
① 正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている



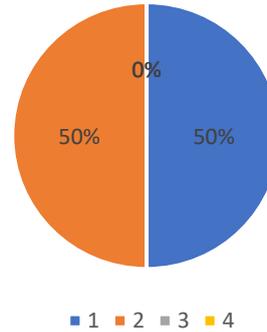
② 親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない



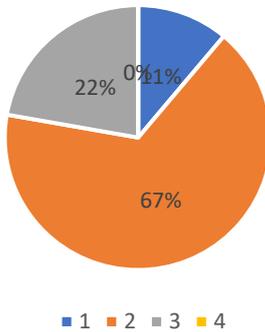
③ 電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている



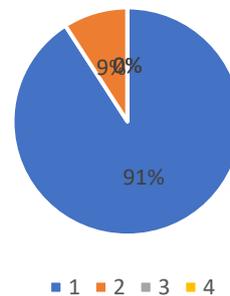
④ 保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している



⑤ 長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている

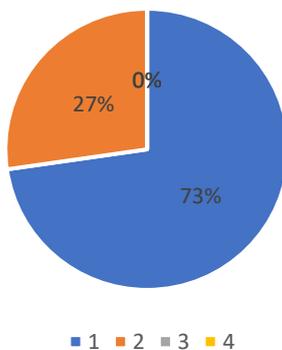


⑥ 保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない



5、クレームへの対処の仕方

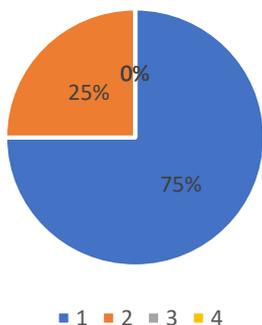
① 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している



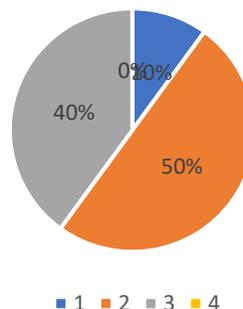
V 地域の自然や社会とのかかわり

1、地域の自然・人々とのかかわり

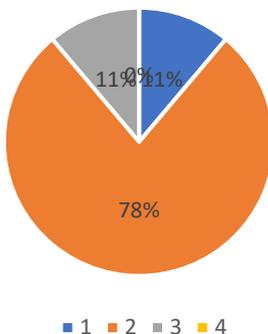
① 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている



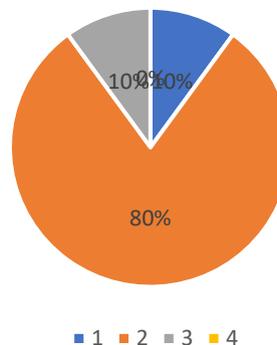
② 子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している



③ 実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している

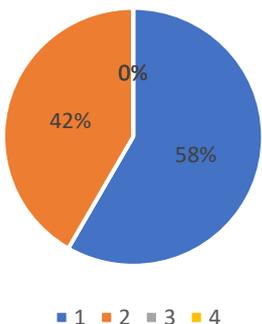


④ 中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している

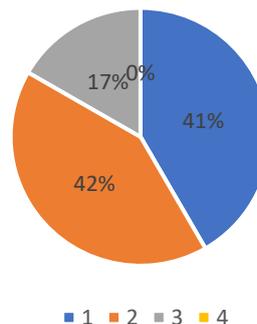


2、小学校との連携

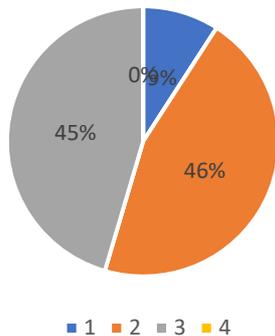
① 園の保育内容が小学校への準備としてつながらることを理解している



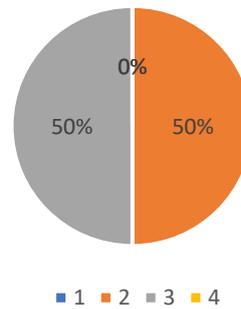
② 小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）がある



③ 卒業した子どもの情報を得よう努めている
(2年目以降の経験保育者)



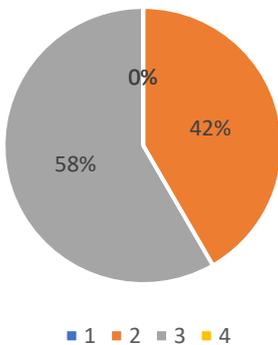
④ 小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている



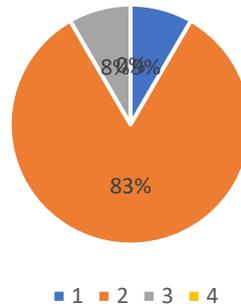
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

1、研修・研究への意欲・態度

① 研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前に内容を確認したり自分なりの考えをまとめている

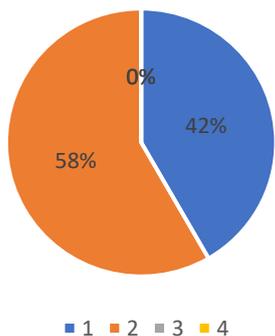


② 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている

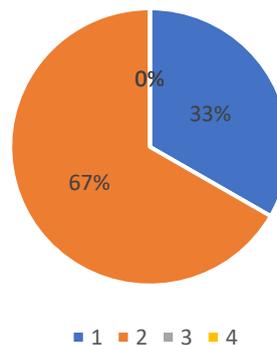


2、遊具・教材に関する専門性の向上

① 園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている。

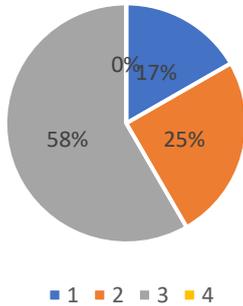


② 園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる

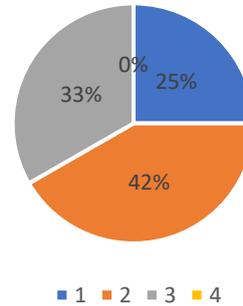


3、園内の環境に関する専門性の向上

① 園舎の構造（二階建て・新園舎）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的意味をもつか理解している

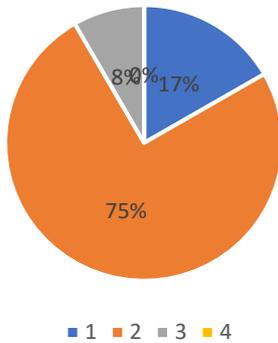


② 園庭や畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的意味をもつか理解し、保育に生かしている

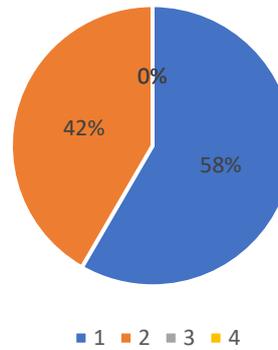


4、今日的課題に関する専門性の向上

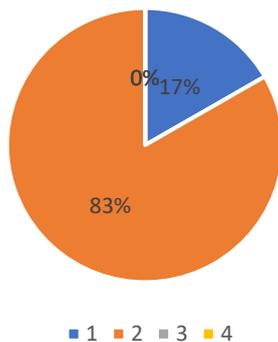
① 子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうか興味・関心をもっている



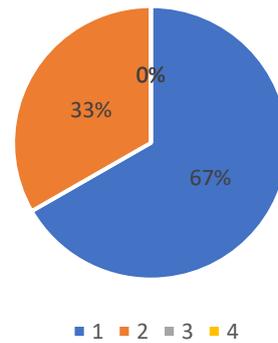
② アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている



③ 幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている

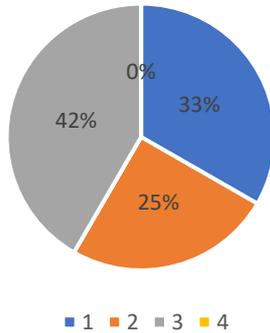


④ こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている



5、自らを高めるための学習

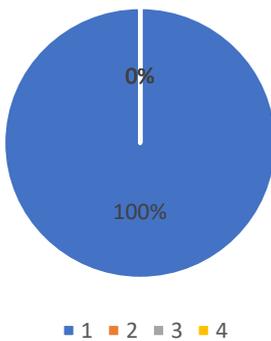
① 保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある



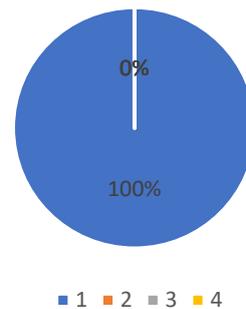
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応

1、健康と安全への配慮

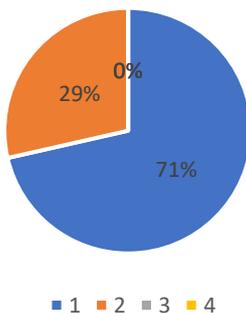
① 朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。



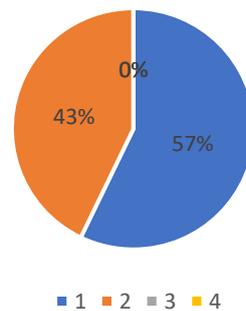
② 体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している。



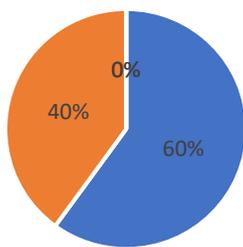
③ 保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼などの既往症について把握している。



④ 体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している

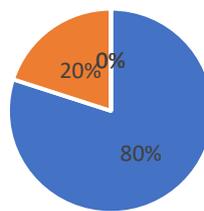


⑤ 家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている



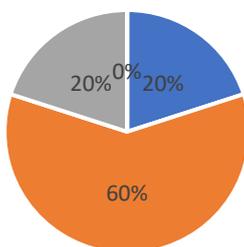
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

⑥ 睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）、およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

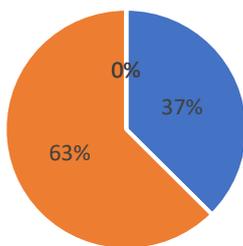
⑦ 一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

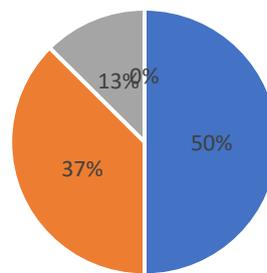
2、乳幼児のみとりと理解

① 乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

② 一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している

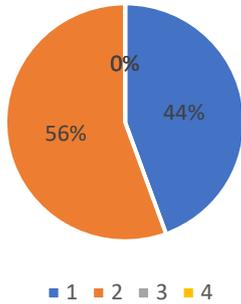


■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

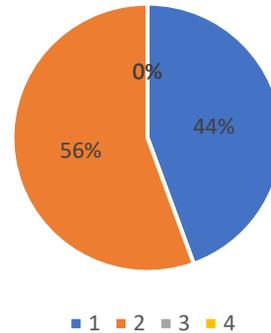
3、指導と援助

〔心のよりどころとして〕

① 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。

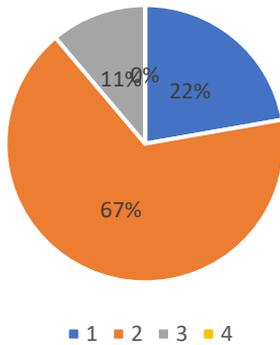


② 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている

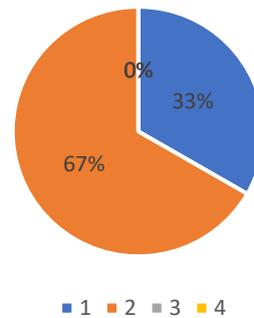


〔遊び・活動の援助者として〕

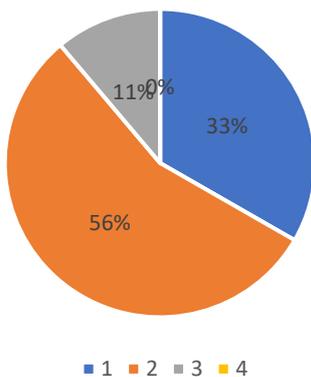
① 乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている



② 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるような言葉がけをしている。

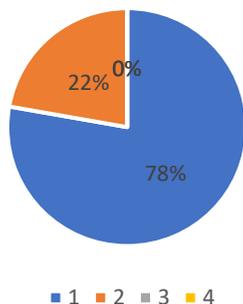


③ 禁止語を不必要に用いないようにしている。



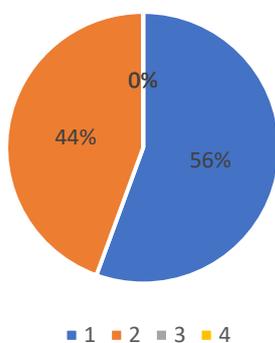
〔その他〕

① 乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。

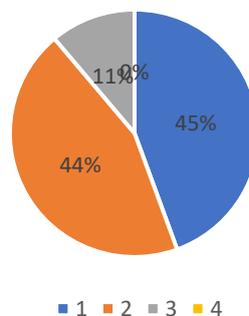


4、保育者同士の協力・連携

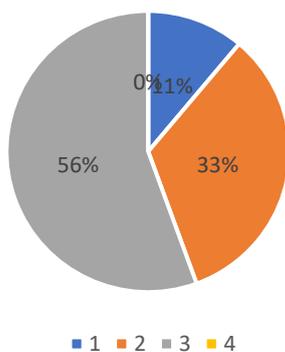
① 保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をしている



② 指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている。



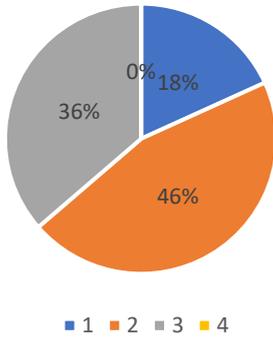
③ 他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している



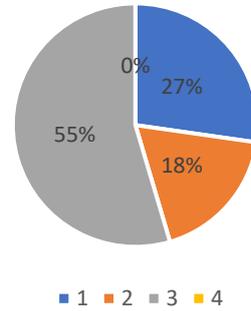
VIII 地域における子育て支援

1、自園の子育て支援事業の理解（全教職員）

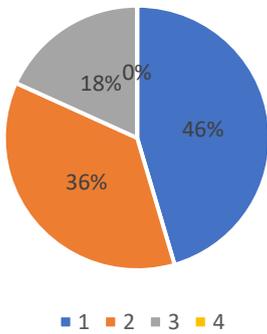
① 地域開放(親子保育園体験日・行事など) について職員間で共通理解の上取り組んでいる



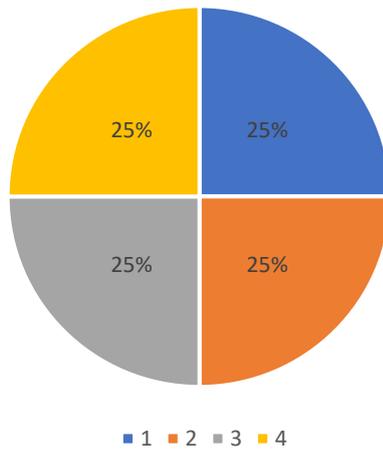
② 自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる



③ 親しみやすい雰囲気を心がけ、利用者に積極的に声をかけている



データについての色分け



保育者並びに保育に携わる者としての、良く出来ていると思った事

- ・こどもの声に耳を傾け、仲立ち・アドバイス・意見を言うようにしている
- ・みんなと同じように行動できなかったり、ゆっくりな子・自分のやりたいことをやりたい子の行動を待ったり、個別に声をかけて流れに誘導する。
- ・外国籍の子に言葉はわからなくても積極的に声をかける
- ・一人一人の子どもをしっかりと受け止め、その子に会った保育又は指導を心がけている。
- ・保護者の立場に立った話し方や助言ができるように心がけている。
- ・3歳児未満への対応（乳幼児のみとりと理解）
- ・発達に遅れが見られる子に対しての声掛け。
- ・子どもは保育者の対応や声掛けを見て学んだりすると考える
- ・5歳児になると、周りとの違いに気づいていくので、そういった子たちの関わり。
- ・様々な状態（体調・気持ち）で登園する子どもの受け入れ。
- ・温かく迎え入れ、安心して過ごせる場となるよう、丁寧にかかわる。
- ・1日の始まりを大切にしている。
- ・健康と安全への配慮
- ・見取りと理解
- ・守秘義務を守る
- ・子ども達と同じ目線で話をし、一人一人の声に耳を傾けられるように対応できた。
- ・子ども達のやりたい事や興味のある遊びを保育の中にできるだけ取り入れるように工夫できた
- ・子どもの事・クラスの出来事で必要な事は、園長・主任に報告・連絡・相談している。
- ・常に明るく笑顔で過ごすように努めている。
- ・個々の成長や発達の違いを理解し、その子に合わせた保育ができるよう心掛けています。
- ・子ども達が発信してくれた言葉や行動を見逃さないように日々心掛けています。
- ・「今日は〇〇やりたい。楽しそう」と子供が興味を持ったことをその日の活動に取り入れたり、時間の設けられない日は次の日に行ったり、子ども達の思いを大事にしながら保育を進めている

具体的な例及び改善策

- ・おやつ時遊びたくてトイレに行かない子に、おやつを見せ「食べるよ！」とあそびを終わらせおむつを替え、手洗いをし、席につかせ、おやつを食べるなど、その子がやりたくなるような声掛けをする。または、行動を待つ（本児が自らやろうとするまで）
- ・入園したばかりの外国籍の子の名前を呼んだり、笑顔で声掛けをし、少しでも不安をなくす。
- ・くまちゃんルームでは異年齢の様々なタイプの子どもがいるが、一人一人の発達段階に合わせた保育を行い、疲れいる子はお昼寝を進めたり、遊び足りない子どもに対してはとことん遊びに付き合う姿勢をとっている。
- ・お迎えでぐずる子供とイライラする保護者の間に入り、両者の関係性を取り持っている
- ・子どもの行動が目につくこと、繰り返してしまうことがよくありますが、声をかける前に一度、なんでその行動をするのかを考えたり、自由あそびの度にけんかを繰り返す子達に、お互いの気持ちを聞いたりする。

- ・特定の子ばかりでなく、一人一人と丁寧に関わりを持つ中で、言葉にならない思いやサイン、その中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築くようにしている。
 - ・下着が見えてしまう子がいたり、上靴が左右反対になってしまう子がいるが自分自身の声掛け・伝え方を変えていると、他の子ども達から「〇〇ちゃん、お腹出てるって寒くない？しまくと温かいよ」など伝え方が変化している。
 - ・家庭での出来事を引きずっての登園も多いので、抱きしめたり、遊び出せるまでゆったりと関わりつつ友達や玩具などにも興味が向くよう仲介していく。
 - ・表現・しぐさをくみ取り対応、一人一人の声掛け・表情などにしっかりと耳を傾けるようにし、楽しく遊び出せるまで見届けたり関わる。
 - ・体調が悪そうな子がいると気づいたら、職員間で共有しすぐに対応する。
 - ・汚れていたり、危険だと思う箇所があれば、掃除したり、片づけをする。
 - ・子どもがうまく言葉にできない時も話しやすい雰囲気を作り、子どもの言葉を待つ。
 - ・朝の受け入れや泣いてしまっている子、困って訴えてくる子に対し、ゆっくり話す時間を作ったり、一対一でスキンシップをとり安心できるようなコミュニケーションを図ることができた。
 - ・”外に行きたい””鬼ごっこやりたい””〇〇のぬりえをやりたい”など、自由あそびの時間や集団遊びも子ども達の声をよく聞くようにした。
 - ・クラスのことに関しては、担任ともよく話し合い、共通理解のもとどういった対応が必要かお互いに話をしあっている。
 - ・クラスだけにならないよう、園長や主任にも保育者の考えも踏まえて報告・相談している。
 - ・朝の受け入れ・あいさつ・お迎え時などの対応は必ず笑顔で明るく行う。
 - ・集団に拘らず、個々の気持ちに寄り添い活動を行う。
- 「外行きたい、〇〇ごっこしたい」と子どもがやりたいことを伝えてきてくれた時、その日の活動と見合わせ、みんなが納得出来るよう相談したり、何を準備したらよいかなど子ども達の”やりたい”思いを大切にしている。
- ・ただ遊ぶだけでなく、他児との関わりやどんな遊びをしたらより楽しいか、素材の良さなどを感じられるようねらいを持っている。

保育者並びに保育に携わる者としての、これからの課題と思った事

- ・外国籍の子が多くなってきているので保護者が日本語を覚えようとしたり、アプリを使ってやり取りするのもよいが、保育者もポルトガル語等の勉強が必要かと思う。
 - ・個別対応が必要な子が数人いる中での子供が安心して安全に遊び生活できる事。
 - ・働く親への協力は必要であるが、それにより子どもへの愛情不足が心配になってくる。相互の関係がうまくいくような取り組みが常に必要になってくると思う。
 - ・個々・個人への個別支援の方法を考える。
- ・園のスローガンはあり理解はしているが、それがどのように保育に展開し、子どもの成長につながっていくかが具体化されていないように思う。（事故後から流すだけの保育になっているような・・・）
- ・園では、子どもの数が減っている一方で、一人一人の子どもへの対応が難しくなっているように感じます。保育士が業務に充てられる時間も少ない（減ってしまう）と思います。

- ・子ども達の個々の違いを理解し、それを踏まえた上で子ども達にも保育士にも良い環境を作るための取り組みをもっと考えた方がよいと思います。
- ・集団から外れてしまう子がいる。その子に対して自分自身に余裕がなくなってしまった時に、寄り添いが減ってしまったり、その子のペースに合わせることができなくなってしまう。
- ・研修に意欲的に参加できない。時間を作ることができず”難しい”。
- ・実践で使える研修などを体験したい
- ・保育者・保護者の満足するための活動になっていないか、考えながら計画したい（行事・製作）
- ・部屋の環境づくり
- ・研修への取り組み
- ・園内の環境づくり
- ・訴えや主張が少ない子に対しての対応（もっと目を向けていきたい）
- ・縦割りの交流がなかなかうまくできない。
- ・保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書、ボランティア活動に関心を持つこと
- ・個々を理解し、その子の成長のために見通しを持った保育をすること。また、それが出来るような環境構成をすること。
- ・より深い専門知識や技能の習得。
- ・以前に比べて自由あそびの時間を設けられるようになり、保育者も子供も時間にゆとりが持っている
- ・お散歩や自然に触れる機会を増やしたい。

具体的な例及び改善策

- ・18時を過ぎて（お迎え）しまう子の対応 → 補食の提供など、親がゆとりをもって食事の支度ができるのではないかと。（おなかすいている子と買い物もまだでイライラしている親もいる）
- ・みんな同じような声掛けで対応できる子ばかりではないので、その子へ応じた支援方法を色々な角度から試して話し合っていきたい。
- ・どのような方向性にするのかを話し合う機会を持つ。始めは管理職、次に正規職員、職員全員。平日の夕方ではやりにくいので、土曜に2～3時間の園内研修として。
- ・職員配置
- ・ゆとりのある活動にする
- ・時間を作るのは難しいが、研修会があれば参加したり、様々な情報に耳を傾けて取り入れることができるか検討したり職員同士話をする場があると嬉しい。
- ・はさみや絵の具の使い方など説明のあるものは一斉ではないと難しいが、やりたい子が再度できるよう環境を整えたり、コーナーを入れるなどして工夫していく。
- ・テーマを決めて園内研修が出来ていないので、保育の質を向上させる上でも出来るとよいと思う
- ・環境設定を工夫している先生がいるので部屋を回って話を聞くだけでも勉強になるし、環境に意識して保育できるようになると思う。
- ・おとなしい子や普段から人並みに何でもできてしまう子に対して、自分から積極的に話し掛け、コミュニケーションをたくさんとっていきようにしたい。
- ・異年齢児との交流が長期休みの預かり中しかとれず、日頃から遊び時間や一緒に何かをする時間が取れると良い。乳児クラスとも声を掛け合って関わる時間を増やしたい。

- ・自分の事に時間が取れず、趣味や他の活動をする機会が取れていない。
- ・新しい知識や他の趣味を持つ事は保育の引き出しを増やすことにも繋がる為、色々な物に関心を持つように目を向けていきたい。
- ・個々をよく観察し、丁寧に関わる。個々に合わせた指導計画の作成。
- ・研修等への参加や情報収集。資格取得のための勉強。
- ・日々の保育の中で子どもにどんな影響をもたらしているのか、どんなねらい・願いがあるのか考えていく。
- ・戸外・お散歩に出かけ、異年齢との関わり、自然物に触れ季節を感じるなど。

